

NEWS LETTER 64

VOL. TAKE FREE

News Letter

vol.64

2016年1月31日発行



マンガ領域第一期生
川端新さんが「月刊スピリッツ」で連載開始

在学生 Interview!!
高田佳奈さん 中田亜花音さん

NEWS LETTER 編集委員オススメ
VALENTINE'S GIFT

講師 Interview !
宮下善成 講師

リレーマンガ
『私達の大学生活はまだ始まったばかり。』第10話

HOT TOPICS

宝塚大学 東京新宿キャンパス 東京メディア芸術学部 | 大学院 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7丁目11番1号
TEL:03-3367-3411 FAX:03-3367-6761 E-Mail:tokyo@takara-univ.ac.jp

なりたいわたしに近い大学。

都心のキャンパスだから
発信する場がいっぱい!

社会に 近い。



先生は第一線で活躍する
現役クリエイター

教員に 近い。



各沿線の新宿駅から
歩いてすぐ

新宿駅に 近い。



各沿線
新宿駅から
徒歩約5分!

学びの特徴

現役クリエイターによる指導のもと、領域の枠を超えて学べるカリキュラムで一人ひとりに合わせた学びを実現!

POINT 1

現場で生きる教育を実践
先生=クリエイター

POINT 2

+αの学びが力になる
選べるカリキュラム

POINT 3

きめ細やかな対応が可能
少人数制の授業



- JR「新宿」駅(西口)から徒歩約5分
- 小田急線「新宿」駅から徒歩約5分
- 都営大江戸線「新宿西口」駅から徒歩約3分
- 京王線「新宿」駅から徒歩約5分
- 地下鉄丸ノ内線「新宿」駅から徒歩約4分
- 都営新宿線「新宿」駅から徒歩約5分
- 西武新宿線「西武新宿」駅から徒歩約4分



マンガ領域第一期生 川端新さんが

「月刊スピリッツ」で連載開始！



かわばた あらた
川端新
漫画家、イラストレーター。
2014年『週刊ピッコムコミックススピリッツ』に読切作品「不忠の春」が掲載され商業誌デビュー。
2016年1月より『月刊!スピリッツ』にて「神軍の将校生徒」連載開始。
他、BL作品やWEB媒体のキャラクターイラストなどを手掛けている。
宝塚大学東京メディア芸術学部助手。



——漫画はいつから描き始めていましたか？

兄の友達が漫画を描くのが好きで、棒人間の漫画を描いて遊んでいたんです。それを見て、棒人間じゃない人間を書きたいと思っていました。当時、小学生のころは漫画雑誌「りぼん」ばかり読んでいて、少女漫画を描いていました。でも、恋愛物語じゃなくて、女の子が活躍する物語を描いていこうと思っていましたね。

藤島康介さんという漫画家が出て、その方のキャラクターイラストに出会ったときに何度も模写をしていました。好きな漫画を読んで、模写しているうちに「好きな漫画の真似」や「ゲームの漫画化」をしていました。「ゲームの漫画化」は世の中に「ゲームのコミカルイブ作品」があり、それを自分でもやってみたかったという気持ちがあったんです。

中学生になって、インターネットが使えるようになり、ネットがキャラクターに対しての貪欲さから、ネットで二次創作の世界を知ることになり、自分もたくさん描いては公開していました。漫画が好きなのは大前提で、その中でもキャラクターが好きだったので、漫画を描いていても、話作りが本当に苦手で作品にすることは難しかったですね。高校生になって漫画研究同好会に入りました。兄の影響もあって、少年漫画にはまっていきます。高校時代はファンタジーものが好きで、「鋼の錬金術師」は大ハマリしましたね。「ジャ

ンブ」も読むようになって少年漫画の面白さを知りました。

高校に入ったら本格的に漫画を描くと決めていて、漫画雑誌のコンテストに投稿するために天狗が出てくる漫画作品を描いていました。当時はオカルトものが好きだったので、その作品を小学館の新人漫画大賞に応募したら最終選考まで残りました。選考に残ったことで、漫画雑誌「サンデー」の編集者の方が担当についてくれて、漫画家の仕事をいろいろ教えてくれました。

——宝塚大学に入学してどうでしたか？

迷わずマンガ領域に入学して、在学中も漫画を描き続けていました。当時、サンデーの編集者の方とは引き続きやりとりして、ネーム作りを教えることもありました。でも、学生生活が楽しいこともあって、入選用に一生懸命漫画を描いていたわけではなかったんです。

当時は新宿まで1時間以上かかる場所から通っていて、電車の中で本を読むようになって、京極夏彦さんの本を読むようになって、自分の中の物語性に変化が生まれてきました。漫画以外の作品からもたくさんことを学んだと思っています。

連載が決まってどうですか？

読み切り漫画と違って、ストーリーが長いので、調べ物がすごく増えました。大まかなストーリーを考えて、登場人物を考えて。担

——月刊スピリッツでの連載が決まった経緯は？

卒業したあと、大学院にいくか就職するかで迷っていましたが、とにかく漫画を描きたい想いがあったのと、宝塚大学で助手しながら漫画を描く道を見つけたので大学に就職しました。

創作同人活動（自主制作漫画を本にして頒布すること）をしながら漫画は描き続け、その後小さな漫画・イラストの仕事ができるようになってきました。あるとき、コミティアの冊子にインタビュが掲載されたのをきっかけに、スピリッツの編集者の方から声を掛けられたんです。「眩暈通」という作品を見せたら主人公を気に入ってくれて、青年誌らしい「重さ」をつけて新たに描いて欲しいと言われました。

担当編集者からすると、歴史考証ができて、女性の読者にも読んでもらえそうな部分が良いからと声を掛けてくださいました。自分が今まで見てきて、描いてきたものが評価されてすごく嬉しかったですね。そこで初めて漫画雑誌に読み切りで掲載することができました。

——連載が決まってどうですか？

当の編者さんとは、「こういうイラストがいいね」と話していますが、どうなるかわかりません笑。描き進めていくうちにイメージが出てくることもあります。晴れて漫画家としてデビューしましたが、やることはまだまだたくさんあります。

——これからの活動は？

とにかく「漫画家」としてしっかり活動できる人になりたいです。単行本はたくさん出したかったと思いますし、今描いている連載漫画から、誰かが二次創作して欲しいと思っています。とにかく人の手に渡って、いろいろな人に触れて欲しい。私が漫画家を目指すことと夢見ているように、私が漫画家になることを夢見ているように、読んでくれた人の想像が広がるような作品をつくりたいです。

作風としては、キャラクターの「五感」を微細に感じて表現していきたいと思っています。目に見えない感情、人間らしさを表現したい。三島衛里子さんという漫画家で「ヨローロー!!!」という作品があります。とても人間を描くのが上手で、あんな漫画が描けたらなあ、と思っています。話はゆっくりなんですけど、登場人物が使う言葉の細かい言い回しや、表情、仕草など、細部に目がいきます。細かいところにこだわった漫画家になりたいですね。

在学生 Interview!!



なぜ宝塚大学に入学したのですか？

高田：高校の就職室に宝塚大学のイラストレーションコース（現在は領域）があるのを知って、検討していました。両親からも「大学行ってね」と言われていたのもあったのと、美大は美術色が濃いと思っていました。高校時代は漫研に入っていたものの、そんなに活動はしていなかったんです。大学に入ったら本格的にイラストも描いてみたいと思っていましたし、漫画家を目指す人たちとも交流が持てると思って。

中田：私も、芸術系よりイラストレーションがやりたかったですね。専門学校も探していたけど、両親の教で大学を出ていたほうが潰しがきくと聞いて笑。大学の学位も取れて、イラストも描けると思ったら最適だなと感じました。高校は美術工芸科の学校にいて、漫画も描けたらいいな、と思いながらイラストを描いていました。漫画はそもそもストーリーを考えるのが難しいと感じていましたし、将来広告系の仕事にしたらイラストレーターションを学びたいと思ったんです。

高田：入学して驚いたのは、先生方が有名な方たちだったことです。小学生のときに使っていた教科書の表紙絵を描いていた先生や、馴染みのある商品のパッケージイラストを描いていたりと、いきなりプロの仕事を目撃できるようなってワクワクしたのを覚えています。

中田：授業が進んでいくにつれて、「絵そのもの」を学んでいきました。高校では絵を描くことの基礎を学んで、描くことばかりに集中していたけど、大学に入ってから絵を使って「どう生きていくのか」を考えさせられました。職業として絵を描いている人たちの考え方は、独学では絶対学べないところからですね。

高田：とくに著作権の授業はおもしろかったです。自分の描いた作品がどうやって世の中に出て行くのか、使える期間はいつまでとか、今まで絵を描くこと以外の知識はなかったです。中田：私は美術解剖学の授業が印象的。身体の仕組みとか、骨格、筋肉、表情など。絵を描く上で、身体の仕組みを知るともっとリアルに描けたり、いろいろな角度から人を観察できるようにまりました。



入学して一番よかったことは？

高田：昔から漫画が好きだったので、マンガ領域の人たちと繋がれたのが一番の財産です。学内のコミックイラスト研究会というサークルに入って、マンガ領域の人たちと一緒にサークル活動ができたことは、社会人になった後も生きてくると感じています。

中田：私もコミックイラスト研究会に所属して、一緒に漫画を描いて楽しかったなあ。みんなで描いた作品を本にして売ったり、絵を通して社会に出れたことはこれから役に立つと思います。

卒業後は絵とどうやって向き合っていきますか？

高田：小さいときから絵が大好きでしたから、これからもイラストレーションは続けていくと思います。同人誌即売会とか、個人でもイラストを描いて出展できるシーンはたくさんありますから、サークルのみんなと大人になってもイベント出展できたら楽しそうですね。

中田：私が春から就職する会社は、教科書などの制作も兼ねている会社で、仕事で絵を描くことは出てくると思います。仕事としてはDTP（デザイン

中田 蓮花音

大阪府吹田市出身
2012年 東京学館船橋高等学校 卒業
現在イラストレーション領域4年生
本誌 NEWS LETTER 編集委員
最近の趣味は新しいパソコン



WORK



↑ NEWS LETTER で使用された作品
← 授業で制作した作品

高田 佳奈

東京都練馬区出身
2012年 徳立工業高等学校 卒業
現在イラストレーション領域4年生
本誌 NEWS LETTER 編集委員
最近の趣味は新しいパソコン



WORK



↑ 授業で制作した作品
← 2014年宝塚祭で飾られた作品

から印刷データをパソコンで行なう全ての作業）がやりたいので、誌面のデザインが主になってくるとは思いますが、本や紙ものにとってイラストは必要不可欠ですからね。「絵にまつわる」仕事をこれからどんどんしていきたいです。

本誌、NEWS LETTERのデザインを担当して学んだことは？

高田：IDesign（誌面制作ソフト）を扱う経験がなかったのですが、毎月発行するこのNEWS LETTERのデザインを通して制作のスキルは身についたと思います。デザインをする楽しさも学べましたし、1冊の本をつくる醍醐味も知れました。

中田：私も、デザインすること以上に取材先にアポイントメントを取ったり、取材先とメールのやりとりをしたりなど、社会人経験も体験できました。学生時代から「仕事」として社会に出れたことはよかったですね。

高田：学生時代に自分のやりたいこと、やりたいことを使って「人のためになるもの」を経験することはとても有意義だと思います。

中田：絵や漫画をやめることは今後もないので、大学で学んだことを活かして仕事をして、好きな漫画や絵を描くことに時間を充てられるような社会人になりたいです。

DEMEL

デメル 伊勢丹新宿店
伊勢丹新宿本店 B1

ショコラーデクープ



ショコラーデクープ
¥972

なめらかなガナッシュと舌触りの良いナッツ、それらを包み込むチョコレートが織り成す一粒は、シンプルながらも味わい深く、スイートとミルクチョコレートの二種類楽しめるショコラーデクープは、幅広い方へのプレゼント向きです。

デメルの商品はチョコレートだけでなく、パッケージも細部まで凝った可愛らしいデザインのものが多いので、バレンタインだけでなく友人への贈り物にもおすすめです。(編集委員 M)

キャラメルミットショコラーデ



キャラメルミットショコラーデ ¥1080

中はキャラメルとサブレ生地の上層になっていて、それを甘さ控えめなチョコレートでコーティングしてあります。キャラメルの味はプレーン、ライチ、赤桃の三種類で、周りのチョコがそんなに甘くないので、中のキャラメルの味をより楽しむことができます。

パッケージの絵もとてもオシャレで、ちょっとした贈り物にオススメです。(編集委員 I)

BEL AMER

ベルアメール 伊勢丹新宿店
伊勢丹新宿本店 B1

Palet chocolat



Palet chocolat(パレショコラ)
センターリキュールベリー 1枚 ¥281

ホワイトチョコレートの中にフランボワーズジュレとリキュールが入ったとても美味しいチョコレートです。バレンタインらしいピンクと白の色合いの可愛らしいデザインが乙女心をくすぐられます。

値段もお手軽で箱売りの他に単品で買えるので、手軽に手に入るチョコレートです！(編集委員 N)

ECLAIR CHOCOLAT



ECLAIR CHOCOLAT(エクレア)
ショコラ) 5コ ¥2160

種類の違うエクレア(ピスタージュ、カフェノワゼット、マロン、オレンジ、ローズフレーズ)が5つ入っているセット。それぞれの華やかな見た目は見るだけで幸せな気分になってくれます。

5つのエクレアのうち、私はローズフレーズを食べました。さくさくなシューに口溶けのいいチョコムース、アラザンなどの様々な食感を楽しめます。チョコは甘すぎず繊細な美味しさです！(編集委員 T)

NEWS LETTER 編集委員オススメ

VALENTINE'S GIFT

新宿伊勢丹にあるチョコレート専門店から編集委員が選んだバレンタインの贈りものに最適なチョコレートをご紹介します。

JEAN-PAUL HÉVIN

ジャン=ポール・エヴァン 伊勢丹新宿本店
伊勢丹新宿本店 B1

Quito



Quito(キト)
¥998

キトという名の焼菓子で、見た目は食感が固めのお菓子とも見えますが、食べてみるとしっとりしていて濃厚なチョコレートの味が口いっぱいに広がり満足できる一品です。

パッケージもまさにプレゼントという形をしていて、手のひらサイズということもあり、贈り物にはもちろん切り分けて何人かで分けておやつに…とできるので、手土産にしても喜ばれること間違いなしです！(編集委員 A)

Saisonniers



ボワトゥ ショコラ 2個人 ¥1227
左: Lune de miel (リュヌ ドゥ ミエル)
右: Ange (アンジュ)

季節限定のボンボンショコラ、「アンジュ」と「リュヌ ドゥ ミエル」の2つのチョコレートが、シックで高級感あふれる箱に入ったセットです。

「リュヌ ドゥ ミエル」は、落ち着いたチョコの甘さに蜂蜜のコクと甘さがバランスよく味わえる一品です。

「アンジュ」は、天使とハートが描かれていてバレンタインらしいデザインです。ガナッシュの甘味とキャラメルのほろ苦さ、スモモと梅の程よい酸味や塩味といった複雑な味わいを1粒で楽しめます。(編集委員 K)

講師 Interview!

宮下善成講師



Profile

株式会社トランジスタ・スタジオ 代表取締役
1987年 九州産業大学 芸術学部 デザイン科卒
グラフィックデザイン業界を経て、3DCG・映像業界に進出。
1997年に株式会社トランジスタ・スタジオを設立。
現在、会社経営の傍ら宝塚大学 東京メディア芸術学部において3DCGソフトMaya講師を担当。
代表作 映画「しんぼる」(松本人志監督) / 中島美嘉「STARS」MV / ファイナルファンタジーX (エフェクト担当)

——普段どんなお仕事をされていますか？

もともとはグラフィックデザイナーをやっていました。広告など紙の媒体をつくっていたんです。その会社が2DCGアニメソフトを購入したことでアニメーション制作に関わるようになりました。その2DCGソフトの販売元が3DCGアニメソフトも販売することになり3DCGの世界に入っていました。当時はCG創世記ということもあって、日本でもまだ技術を持っている人が少なかったので開発元の会社の人と一緒にカナダに行って最新技術を学びました。

そこからCGの技術を少しずつ身に付けていきました。最初は建築系の仕事が多く、ワイヤーフレーム(3次元グラフィックスの表現手法の一つで、立体図形を輪郭線のみで表現する方式)などを使った仕事もありました。できたばかりの都庁の構内案内をCGで作ったりしました。今ほどエンターテイメント系の仕事は多くなかったと思います。当時はパブルの時期でもありましたから、CGに対する世の中の期待感が高かったと思います。テレビ番組ではウゴウゴルーガが始まり、ゲームではブレイクステーションが発売、「パラッパラッパー」などCGゲームも出てきたころでした。

CGソフト販売会社に出向しサポート業務を行いながらも、いろいろなCG制作の案件を受けるようになり、だんだんCG映像制作の仕事が増えていきました。その頃、一緒に活動していた友達が「ファイナルファンタジー」映画化のプロジェクトに参加するため、ハワイに移住することになったんです。私はそのときハワイに行く気はなかったのですが、日本に残ることにしました。当時働いていた会社にはもともとCGの部署があったわけでもなく、私が技術を身につけて自分で営業して仕事もとってきていたので、会社を作った

立しようと思ったんです。

現在、私は第一線で手を動かすことはなくなりましたが、会社ではCM・テレビ番組・MV・映画・ゲーム機とあらゆるCG映像の制作を主にやっています。いろいろな技術が発展してきて、イメージしたものはほとんどCGで表現できる時代になりました。企業の商品CMも、まだ現物ができていない状況でも、デザインだけわかればCGでつくることができます。そうやって先にプロモーションしたり、まだ世の中にないものを先に生み出すことができるのもCGの魅力ですね。

——授業ではどんなことを教えていますか？

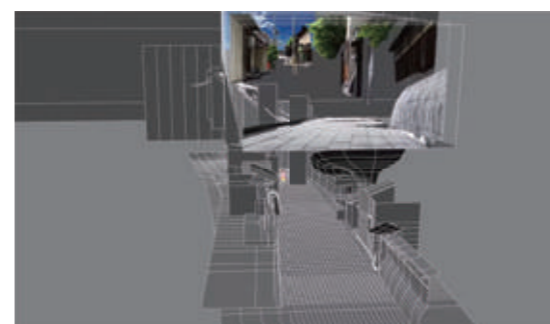
映像領域、ゲーム領域の人たちを対象に授業を行っています。「MAYA」というCG制作ソフトを使って教えます。尺の短い15秒ぐらいの作品を、企画↓絵コンテ↓実写との構成を考えて作ってもらいます。いわゆる映像制作と違い、CGの場合コンピューターの中で撮影、制作を行っています。ですのでパソコンがあればできる作業です。モデリングと呼ばれる粘土細工みたいなものを最初につくって、それを自在に動かせるようにして制作を進めていきます。15秒と短い作品といっても、一ヶ月ぐらいの制作期間を設けて、一人でできるだけいろいろな技術を使って制作できるスキルを身に付けていきます。

——教えていることで気をつけていることはありますか？

結局は人がつくっているものなので、制作者の中につくりたいイメージが強くないと具現化できません。まだまだ技術



Kiyoshi Sugo 「Knocking On Your Door -Don't Wait-」
企画・絵コンテ・監督・キャラクターデザイン・CG/アニメーション制作を担当



京都学園大学 テレビCM
企画・絵コンテ・監督・CG/アニメーション制作を担当



的にも難しい工程がありますが、一つずつ覚えていって、すべての工程に興味があることを学んでいってほしいですね。あとは、「CGとはこういうものだ」という押し付けたイメージは言わないようにしています。とにかくCGを使って面白いものを生み出して欲しい。ただただ形にするだけじゃなくて、その作品の物語性が大切で、これは漫画でも映像でもなんでも同じだと思うんです。使うスキルが違っただけで、企画や物語を大切にしていってほしいです。



私達の大学生活は まだ始まったばかり。

リレーマンガとは
複数の人が順番に描いていく漫画のこと。
この漫画では、月にプロットを編集者、
作画を学生が担当しています。

あらすじ

学内編集者講習会に参加した千絵。がんばって描いた自身の作品を持ち込み、全体的にまだ「まだまだ」という評価を受けながらも、ストーリー構成は褒められる。新しい発見もあったと前向きに考え、今度はもっといい漫画を描くと宣言するのだった。



※この漫画は、宝塚大学の大学生活に基づいたフィクションであり、実在する人物などはほぼ関係ありません。

人物紹介



新城千絵
マンガ領域の1年生。
好奇心旺盛で何にでもチャレンジする。
チョコレートは自分局に買うタイプ。



緒方遊太
ゲーム領域の1年生。
プログラマー志望のゲーマー男子。
本人曰く、水映より千絵のほうが好ましい。



★恋が始まる予感……?★

1月23～25日の3日間、原宿にあるデザインフェスタギャラリーにて、イラストレーション領域5期生13名による「卒業制作展示会」が開催されました。会場にはイラストレーションのみならず、立体作品や絵本など、バラエティ豊かな作品を展示。講師、北見隆教授のもと4年かけて学び確立してきたそれぞれの世界観をあますところなく表現し、来場者の足を止めていました。



「トンドの夢想家達」展に北見教授、高田講師が参加



中央区京橋のギャラリー・オル・テールにて、「トンドの夢想家達」展VOL.IIIが開催されました。この企画は幻想芸術に造詣が深い修復家の井関周さんの呼びかけで集まったアーティスト28名による作品展です。円形(または楕円形)のみの作品による珍しい展示で、昨年に引き続き本学の北見隆教授と高田美苗講師が作品を出品しました。

本学部マンガ領域も審査に参加。 『第2回 なるほど!東京水!作品コンクール』



東京都水道局主催の『第2回 なるほど!東京水!作品コンクール』。このコンクールの「4コマ漫画」部門の審査員を本学マンガ領域の竹内 一郎教授、市野 治美講師、上原 愛弓助手が務めています。12月23日にこの企画のイベントとして教員と学生が出張して、4コマ漫画のワークショップを行いました。当日はたくさんの方に参加していただき、146件の応募がありました。小さいお子さんや家族連れの方も多く、常にブースも賑わっており、とてもよいイベントとなりました。



ぶどうの会第9回チャリティーコンサートの パンフレットを渡邊准教授と学生がデザイン、 イラストを担当

鎌倉を中心に活動している女声合唱団ぶどうの会主催の「第9回チャリティーコンサート」のパンフレットの制作にて、デザインを本学渡邊准教授が、イラストをマンガ領域4年有馬ゆづかさんが担当しました。この冊子は12月11日に開催された第9回チャリティーコンサートの際に使用されたものです。



東京メディア
芸術学部の
これから!

■入試情報

一般入学選考 第2期

出願期間: 2/8 ~ 2/26

選考日: 3/6

■第6回 宝塚大学
東京メディア・コンテンツ学部
卒業制作展

2/20 ~ 2/21

開催時間: 10:00 ~ 17:00

レセプションパーティ: 2/20 18:00頃開場予定



編集後記

2016年が始まり早1ヶ月。高校3年生は大学受験が終わった方、真つ只中の方、卒業間近で寂しい方、卒業で別れる前に告白をしようとお考えの方、いろんな思いが巡る時期ですね。

そんなこの時期に送る今回のNEWS LETTERは、パレンタインデーも近いということで、新宿企画はチョコレート特集をしております! 人にあげるだけでなく、自分用で用意しようとする方も必見です(笑)。

この季節、甘いものと共にこのNEWS LETTERを読んで、一息ついてください!

NEWS LETTER 編集部

Editor 金澤英樹 (本学職員)
ミネシゴ (フリーライター)

Assistant Editor 爲谷愛美 (本学職員)

Art Director 渡邊哲意 (本学准教授)
芦谷耕平 (本学講師)
小野寺真央 (大学院1年)

Designer 有馬ゆずか (4年)
河野真美 (4年)
高田佳奈 (4年)
中田亜花音 (4年)

Assistant Designer 松原麻友 (2年)
石原亜矢子 (2年)

表紙イラスト のき (2年)

リレーマンガ 作画 大川すだち (3年)



→→→ 連載 →→→

入試課金澤のおすすめ!

新宿スイーツ食べ歩き

事務員の金澤が大好物であるスイーツをピックアップし、編集の小野寺と松原が皆様にお届け!

今回は新宿まち歩き企画に合わせて新宿伊勢丹のスイーツを紹介! 買い物帰りに手作りジェラートはいかが? (イラスト:Sサイズ(2種類)420円税込)

☆感想(つ・ω・)つ☆
イトイン併設でお買い物帰りにでも気軽に寄れるワンランク上のジェラートです!



Premium
Mario Gelateria

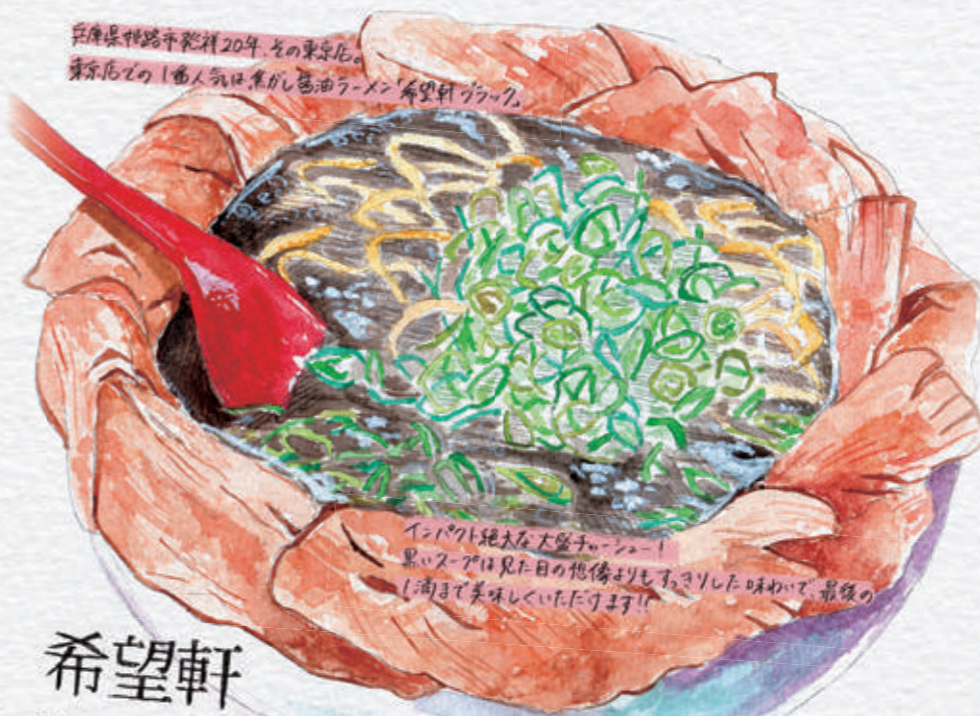
プレミアム
マリオジェラテリア
新宿伊勢丹店

東京都新宿区新宿
3-14-1
伊勢丹新宿本店B1F



新宿ラーメン巡り

これは院生の小野寺が自身の大好物であるラーメンを求め新宿を巡り、独断と偏見で選んだラーメンを食べては描くという企画である。



希望軒
希望軒ブラック(チャーシュー大盛) (1,060円税込み)

希望軒 新宿3丁目店
東京都新宿区新宿3-7-3 丸中ビル1F
03-6380-0133
[日~木曜日] 11:00~23:30
[金・土・祝前日] 11:00~翌1:30



小野寺真央
1992年12月27日生まれ。
宮城県気仙沼市出身。東京都北区在住。
2015年 宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部
メディア・コンテンツ学科 卒業
現在、メディア・造形研究科 修士課程1年。
好きな食べ物、ラーメン。